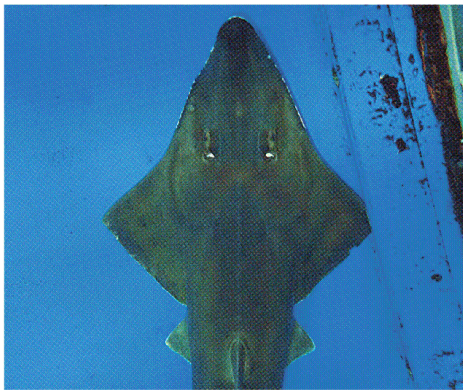
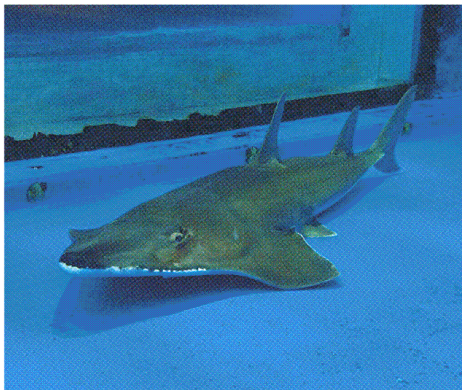




㊦昨年新種であることが分かったモノノケトンガリサカタザメ㊦背面から見るとモノノケトンガリサカタザメの特徴的な三角形の頭部がよく分かる

モノノケトンガリ サカタザメ

学名 *Rhynchobatus mononoke*

分類 ノコギリエイ目トンガリサカタザメ科

大きさ 全長2.5m

分布 九州西岸沖

食べ物 海の底に生きる「底生」の他のエイ同様に、底生の魚類や甲殻類を捕食していると思われる

特徴 名前に「サメ」と付くが、エイの仲間。頭部はエイのように平たく、体はサメのように太い体形をしている。水槽内ではあまり泳ぎ回らず、底でじっとしていることが多い

20年たち新種と判明

約20年前、かごしま水族館では開館準備のためにさまざまな生きものを集めていました。その時、薩摩半島の定置網に大きな魚が掛かり、黒潮大水槽で飼育されることになりました。

その魚は頭部がエイのうに平たく三角形で、体はサメのように太い体形をしていました。独特な姿から、エイの一種であるトンガリサ

カタザメとされました。当時は日本に生息するトンガリサカタザメの仲間は1種だけしか知られていなかったのです。しかし、近年になって頭部や背びれのとり具合、体の模様などの違いからこのエイはトンガリサカタザメではないことが分かりました。さらに調査を続けた結果、

トンガリサカタザメとして20年間飼育されていたエイは、新種だと判明したのです。昨年、モノノケトンガリサカタザメと名付けられ、新聞やテレビにも取り上げられて、広く知れ渡りました。

よく知られていた種が実は新種だったということは、魚では時々ある話です。しかし、今回のように大型のエイで、20年以上飼育されたものが新種だったということは大きな驚きでした。

水の中の生きものを調べることはとても難しいため、今でも毎年多くの新種が見つかっています。みなさんも気になる魚を見つけたらしっかり調べてください。まだまだ見つからない魚が意外と身近にいるかもしれませんよ。(展示課魚類展示係主任・山田守彦)

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

主任・山田守彦